

| | | | |
|---|---|-------------|-------|
| 年度 2009 学期 後期 | 曜日・校時 火・3 | 必修選択 選択 | 単位数 2 |
| 授業科目/(英語名) | 生体の機能 (生体異常とその制御) Basic Human Physiology (Drug response) | | |
| 対象年次 1・2 年次 | 講義形態 講義 | 教室 | |
| 対象学生(クラス等) | 全学部 | 科目分類 人間科学科目 | |
| 担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:栗山正巳 /Eメールアドレス:mkuriyam@nagasaki-u.ac.jp /研究室:医薬品合成化学 /TEL: 095-819-2430 /オフィスアワー:12:00-12:50(水曜を除く) | | | |
| 担当教員(オムニバス科目等) | 河野通明/kohnom@nagasaki-u.ac.jp/細胞制御学研究室/月~木、13~17時 中山守雄/morio@nagasaki-u.ac.jp/衛生化学研究室/オフィスアワーは事前に mail で確認を 栗山正巳 | | |
| 授業のねらい/授業方法 (学習指導法) /授業到達目標 授業のねらい:病気、環境変化、薬物適用などにより生じる生体異常を細胞や個体レベルの視点からその意義、メカニズム等を学ぶとともに、それらの異常現象に対する制御についても理解することを目的としている。 授業方法:スライド、液晶プロジェクター、プリント等を用いて、講義する。 授業到達目標:細胞や個体レベルの視点から生体異常機構とその制御機構について理解できる様になる。 | | | |
| 授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 病気、環境変化、薬物適用などにより生体異常を生じることがある。その身体の変化を細胞レベルや個体レベルからその現象に関わるメカニズムを理解し、生体の応答性を学ぶ。また、その機構を学ぶことで、それらの異常現象に対する制御方法についても理解することを目的としている。 第1-5回、担当 河野通明 第1回 細胞膜の構造と機能 第2回 細胞の内部構造1(核、小胞体、ゴルジ体) 第3回 細胞の内部構造2(ミトコンドリア、葉緑体、細胞骨格) 第4回 細胞分裂の仕組み 第5回 細胞間相互作用とその制御異常としての「がん」 第6-10回、担当 栗山正巳 第6回 創薬の流れ 第7回 医薬品開発研究 第8回 医薬品の構造と作用 I 第9回 医薬品の構造と作用 II 第10回 第6~10回分の授業の総括(試験含む) 第11-15回、担当 中山守雄 第11回 環境因子に対する生体応答 I 第12回 環境因子に対する生体応答 II 第13回 生活習慣病とその予防 第14回 神経変性疾患の発症と診断 第15回 第11~15回分の授業の総括(試験含む) | | | |
| キーワード | がん、病気、環境変化、薬物、細胞、個体 | | |
| 教科書・教材・参考書 | 参考資料は適宜紹介する。 参考書:Essential 細胞生物学(第2版、南光堂) | | |
| 成績評価の方法・基準等 | 各担当教員による講義で小テスト、レポート、授業に対する積極的な取り組み方を評価の対象とし、河野通明 (34点分)、中山守雄 (33点分)、栗山正巳 (33点分) の合計で評価する。 | | |
| 受講要件(履修条件) | やむを得ず(正当な理由で)欠席する場合は、担当教員と相談すること。 | | |
| 本科目の位置づけ /学習・教育目標 | 生体機能異常とその制御機構に対する基礎的知識を身につける。 | | |
| 備考(準備学習等) | | | |